

## <報 告>

# United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation (UNSCEAR) でのインターンシップ報告

東京工業大学先導原子力研究所

齊川 昂太郎

2019年12月2日から2020年3月14日の期間においてオーストリア、ウィーンに設置されている国連機関 United Nations Scientific Committee on the Effects of Atomic Radiation (UNSCEAR) でインターンシップを行った。国連機関 UNSCEAR は電離放射線による被爆の程度と影響を評価・報告するために国連によって1955年に設置された国連科学委員会であり、チェルノブイリ原発事故や福島原発事故などを含む電離放射線に関する問題に取り組んでおり、多くの報告書を発行している。また UNSCEAR に業務遂行の為の支援を提供する組織的責任は、環境問題に関する国連機関である United Nations Environment Program (UNEP) にある。以下に UNSCEAR でインターンシップを行う事になった経緯やインターンシップ期間中に行った業務などを示す。

まず、筆者の所属している研究室である東京工業大学先導原子力研究所松本義久研究室の研究領域、そして自分の研究内容と UNSCEAR が扱っている業務内容が近いことに加え、私が海外での活動に興味があったことから UNSCEAR のインターンシップに申し込んだ。その結果、来年2021年が東日本大震災からちょうど10年の節目であることも相まって、福島原発事故に関わる業務を取り扱う Fukushima Project の一員として採用される運びとなった。その為、インターンシップ期間中は基本的に福島原発事故に関する業務を任されていた。国連機関との契約上、業務内容の詳細を示すことができないが、UNSCEAR が日本で行ったアウトリーチ活動の補助や福島原発事故に関する情報をまとめた報告書の編集作業など様々な業務を行った。多くの業務で自分が研究・学んできた知識を活かしながら仕事を行えたと感じている。オーストリアという異国の地で様々な国籍の国連職員の方々と一緒に日本に関する仕事を行うという経験はとても貴重であると同時に、少し不思議な気がした。

このインターンシップを通じて、特定の国には属さない国連機関で働くということを少しだが理解できたと感じている。また業務だけではなく、オーストリアの日本大使館で行われた新年会に招待してもらえるなど、普段ではお会いできないような方々とお話できるなどとても貴重な

経験をさせて頂けた。また、国連機関 UNSCEAR でインターンシップを行った日本人の前例がなく、自分で一から関係を築き上げていかなければならないという点を始め、インターンシップ期間中に世界中で COVID-19 に依るパンデミックが発生するなど、様々な困難に遭遇したが、無事インターンシップを終了、そして帰国することができ、良かったと感じている。

最後に、インターンシップを行うに当たり助けて頂いた松本准教授始め、松本研究室のメンバーの方々、東京工業大学 Advanced Nuclear 3S Education and Training (ANSET) の先生方、また、日本人インターンの前例がなかったこともあり、インターンシップ受け入れ前から尽力して頂いた清水裕子さんを始め UNSCEAR 職員の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。



Vienna International Centre 内で撮影した写真